



映画製作による日本人学生と留学生の国際交流・異文化理解の推進とコミュニケーション・スキルの向上の取り組み

法文学部 准教授 伊集院 敬行

授業で映画製作を行うことには二つの大きな教育上の目標があります。一つ目は学問的なもので、映画製作を通して学生の映画の理解を深めることです。二つ目は、学生がみんなの一つの目標に取り組むことで、問題解決能力、コミュニケーション・スキルを向上させることです。私はこれを十数年にわたって取り組んできました。そして3年前からこれに加え、英語を共通言語にした映画製作の授業も開講しました。それがこの「映画製作による日本人学生と留学生の国際交流・異文化理解の推進とコミュニケーション・スキルの向上の取り組み」です。この授業では、使用言語を英語とすることで、日本人の学生と留学生とが一緒に同じ課題に取り組むこととなります。そのため授業は写真のようにちょっとした留学のようになります。でも留学と違って授業は週に一度ですので、教員も学生もその英語力の不足は十分な準備で補うことができます。一方で留学生にとってはこの授業は日本人との交流の絶好の機会です。このように書くと楽しい国際交流の授業に思われるかもしれませんが、ですが実際にはそうではありません。映画製作のような先の見えないものに取り組むとき、常に思いもしない問題が次々に起こります。それを英語でするとなるとなおさらです。しかし、そんな困難に取り組むとき、学生は成長します。そのような学生を見ていると私は、自分の授業ながら彼らを「羨ましい」と思います。そして、授業とは何かを教える場所というより、むしろ何かが起こる場所だと実感させられるのです。

